

はじめに

本号は、二つのシンポジウムの特集号である。

総括班主催の第4回公開シンポジウム「現代世界と古典学」は9月に京都で開催された。基調講演は、久保正彰（東京大学名誉教授）、Heinrich von Staden（Princeton 高等研究所教授）、Guenther Poeltner（Wien 大学教授）の3人の先生方がそれぞれ西洋古典学、古代ギリシャ学、聖書学の立場から、「現代東欧における古典学の現状」、「古代ギリシャ・ローマにおける科学文献の伝承」、「聖書の創造信仰のあり方」について報告下さった。そのほか上山春平氏の開会の辞「科学と古典学」をはじめ、多数の研究報告、パネルディスカッション、全体討議をここに報告する。

7月に京都で開催されたシンポジウム「文化的制度としての中国古典」は、本特定領域研究の中国学分野責任者、興膳宏氏が主宰された。興味深いテーマに関する研究発表について、本号には平田昌司氏が報告下さった。これらは平田氏が論文集に編まれ、総括班発行『古典学の現在』第2号としてまもなく刊行される予定である。

「古典学の再構築」は、発足以来2年半を経過し、中間点を通過した。多極・多文明世界にふさわしい新しい古典学、これを「一般古典学」の名で呼びならわしたいと考えているが、その構築に向けて、古典学諸領域の連携をいっそう緊密なものとしたい。そして異領域が触発しあうことよって現れた成果を、今後報告してゆきたいと願っている。

本号編集の労は、「古典の伝承と受容（日本）」班の木田章義、李長波の両氏がとって下さった。充実したものとしていただいたことを深く感謝する。

平成12年11月15日

領域代表 中谷 英明